

令和５年度淀川区区政会議第１回教育・子育て部会議事要旨

日 時：令和５年５月２５日（木） 午後６時２９分～午後７時５４分

場 所：淀川区役所 ５階 会議室

出席者：

- ・ 委員５名（８名中）
奥委員、中村委員、西川委員、西澤委員、森委員
- ・ 区役所
田口政策企画課長、竹田こども教育担当課長、吉國健康推進担当課長
山村保健福祉課子育て支援担当課長代理、生駒保健福祉課教育支援担当課長代理、大橋政策企画課長代理、野崎保健副主幹ほか

内 容：

- １．開 会
- ２．政策企画課長あいさつ
- ３．議 題
 - (１) 孤独感や不安感を抱える妊婦への支援策について
 - (２) 課題を抱える小中学生・家庭への支援策について
 - (３) ヤングケアラー支援について
 - (４) 令和５年２月の区政会議全体会議におけるご意見への対応方針について
- ４．その他

資 料：

【当日配付資料】

- ・ 次第、配付資料一覧
- ・ 区政会議部会名簿、座席表
- ・ ご意見票
- ・ よどマガ！５月号

【事前配付資料】

- ・ (資料１) 令和５年度第１回教育・子育て部会 ご意見をうかがいたい内容
- ・ (資料２) 区政会議におけるご意見への対応方針

1. 開 会

2. 政策企画課長あいさつ

3. 議題

(1) 孤独感や不安感を抱える妊婦への支援策について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「孤独感や不安感を抱える妊婦への支援策について」区役所より説明

- ・妊婦さんが病院にかかる際の医療費等の情報については事前にどのように案内していますか？（奥議長）

⇒全数に実施している母子手帳の交付時面接で丁寧に対応しています。

以前に比べると随分サービスは手厚くなっています。以前は検診費用は2回分ほどしか公費負担がなかったのですが、今は14回分となっており、さらに超音波の検査等という形で、随分補助については良くなっています。

（野崎保健副主幹）

- ・ただ一方で検診の補助だけでなく、ワンオペで育児されているとか本当に孤立感を感じていらっしゃる方も多いということもありますので、単に検診の受け方ということだけではなくて、産前・産後にこういった保健サービスが使えるのかという、母子保健福祉サービスのメニューもご紹介しています。

（野崎保健副主幹）

- ・子育てサロンというものをやっていますよね。主に未就園児を集めてするんですけど、妊娠中の方もいかがですかというような呼びかけをしてもいいものはないかなと思いました。（中村委員）
- ・サービスは格段に良くなっていますが、昔と違って今は子どもの名前を聞いても「個人情報」と言われたり、よその子どもを抱っこしようとしても、落としたらどうなるのか、というような危険な話ばかりが先に出てきてしまいます。

昔は近所付き合いかから人間関係が出来たのですが、今は行政がその辺を埋める窓口でやってくれているけど、それでもワンオペかどうかはわからないでしょう。（奥議長）

⇒地域活動が広がるのは、良いことだとは思いますが、その人の人となりをよく知っている人が来てくれれば、よく来てくれたということになるけれど、その辺りの希薄さが今課題となって、回られている町会でも民生委員さんでも戸惑われているのかなと思いました。

多分、町会に加入してくださいという案内にまで至っていないと思うので、「子育てサロンは地域でやっていますよ」というようなチラシをお渡しする

ことは、こちらからでも出来るのかなと思いました。

(竹田こども教育担当課長)

- ・区役所のほうから、簡単なチラシを各地域に渡して、回覧を年に1回でも2回でも回覧してみるといいのではないのでしょうか。

私の地域では、担当の保健師さんに子育てサロンの、名刺大ぐらいで毎年作っているものを渡して配っていただくように今までずっとしていたんですよ。今回も作りましたので、担当の方に束を渡そうかなと思っています。それを渡すことによって、実質は子育てについてですが、未就園児だけでなく、妊娠されているお母様たちにも、こんなところもあるよというお知らせもできるので、お知らせをしていただいたらありがたいなと思います。

(中村委員)

⇒保健師の間でも悩んでいることがあります。地域ごとに保健師が決まっております、赤ちゃん訪問についてもその地域の保健師が行きますが、その際に色々な背景を探り、ニーズも探りながら訪問していますが、中にはあまり周囲と接したくない方もいらっしゃる、逆に地域でのサロンないしサークルがないかと聞かれる方もいらっしゃいます。そのような方については、地域の保健師として、いつどこでそのような集まりが催されているかご紹介させていただいたり、一歩踏み出せないお母様については、一緒に行かせていただいたりしています。ただ、なかなかつながらない方々をどうするのが本当に悩ましいです。(野崎保健副主幹)

- ・自ら集まりに来てくれる人はいいいけれど、自分から来ない方については、我々ではどうにもならないので、役所から「子育てに困っている方は区役所にぜひ来てください」というようなPRをしていただくしかないと思います。

(奥議長)

(2) 課題を抱える小中学生・家庭への支援策について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「課題を抱える小中学生・家庭への支援策について」区役所より説明

- ・今は小学校・中学校に自由に入れなくなってきており、児童委員や町会の方々が学校に子どもたちの様子を聞きに行こうと思っても、先生方の労働時間の問題もあるなかで、先生の時間を奪うこともあり、なかなか先生とお話できる機会そのものがないです。(奥議長)
- ・地域連携会議、学校協議会等作っている仕組みがあれば接点出来ます。その接点は無理やり作らないと出来ないと思います。(奥議長)
- ・地域連携会議をやっている地域もバラバラであり、出席者もバラバラです。そこで、出席者も保育所、学童保育などメンバーを決めておくと思い

ます。そうすることで会議に行かないといけないという風にすることはでき
ると思います。(奥議長)

・地域連携会議を全小・中学校で行っているかどうかリサーチしたことはあ
りますか？(奥議長)

⇒学校協議会というのがありますが、地域連携会議と言われると把握できて
おりません。(生駒保健福祉課教育支援担当課長代理)

・地域が良かれと思ってやることが、そこまですることなのか、学校の先生に
対してのオーバーワークを強いることもあって、なかなかそのところが動か
ないのが現実なので、そこはこども教育担当(旧教育支援担当)さんとかと
連携して、大阪市としてもこういう会議を年に4回はやってもらおうと、地域
と教育の連携はやりやすいとは思いますが。(奥議長)

⇒学校協議会は、地域の方と学校と行政も参加させていただいていますが、
地域連携会議についても、大体よく似たメンバーが参加されていて、よく似
た会議を何個もするのか1個に絞るのがいいのか、いろんな議論があると思
いますが、今後の事務の参考にさせて頂きたいと思います。(竹田こども教育
担当課長)

・どこの家庭を見ても子どもも親も大変なので、費用面で授業料も給食費も無
償にするべきだと思います。(森委員)

(3) ヤングケアラー支援について

○区政会議委員の皆様にご意見をうかがいたい内容「ヤングケアラー支援につ
いて」区役所より説明

・こういう地域とか、こういうところで困っているんだという、そういうお話
が今区役所の方まで届いているというあたりがございましたら、お聞かせい
ただきたいと思います。(西澤委員)

⇒大阪市全体としては市立中学校128校の1年生から3年生、51,911
人に、令和3年12月末に調査した結果、回答は87.2%、45,268
人のうち9.1%がヤングケアラーに該当するという結果が出ています。

(山村保健福祉課子育て支援担当課長代理)

・淀川区としては、要保護児童対策協議会で既に支援をしているお子さんや、
こどもサポートネットで学校と連携し対応している中でヤングケアラーの
お子さんの把握を行っています。まだ4件ということで件数は少ないですが、
関係機関からの相談もあがってきているところですが、全体の件数はつかめ
ていないのが現状です。(山村保健福祉課子育て支援担当課長代理)

・どこからがヤングケアラーで、どこからが親孝行として親の面倒をみている
かは漠然としてわかりません。(西澤委員)

・支援が必要かどうかは本人に聞くしかないとは思いますが、一番わかってい

るのは学校の先生だと思います。結局、今は先生が生活支援を含めて子どものしつけまで担当しているので、家庭訪問を通じて、親御さんの状況を見てヤングケアラーかどうかを判断するしかないと思います。

- ・今、ヤングケアラーの法律上の定義がない状態で支援を進めていってまずし、日本の文化的に親の手伝いというところも尊重されていますし、そこが一番ネックになっているところです。ヤングケアラーが絶対的な悪かというところではなくて、家族の絆であったり、思いやりが育ったり、いい面もすごくたくさんあるというところの本当の境目、支援の必要性とかがものすごく難しいと思っています。
 - ・一番お子さんと関わりがある学校が、ヤングケアラーを見つけられる機会が多いと思いますが、お子さんのちょっとした変化については、お子さんをずっと小さいときから見ている地域ではないと分からない部分があると思っています。（山村保健福祉課子育て支援担当課長代理）
 - ・ヤングケアラーとは別ですけど、不登校を淀川区で把握するという方法も、ヤングケアラーにあたるかどうかの判断の方法の一つかなと思います。（西川委員）
 - ・ヤングケアラーの支援推進事業500万円について、具体的にどんな支援をいただけるのですか？（奥委員）
- ⇒ケースバイケースになりますし、まずは本人と家族の気持ちに寄り添って、その必要な支援につなげていく、関係性から築いていかなければいけないです。（山村保健福祉課子育て支援担当課長代理）
- ・今年10月に家事・育児の支援を無料で導入できるようなサービスが整備されてきているところです。ほかにも、親御さんが障がいをもっていれば、障がいサービスにつなげたり、介護のサービスにつなげたり、ご家庭の状況に応じた支援メニューを、関係機関でしながら進めていくという流れになるかと思っています。
 - ・要対協では仕組みができていると思うが、ヤングケアラーとなると、家事・育児・誰が訪問してくれるのか、誰がお金を出すのかという話になってきたら全然わかりません。（奥議長）
 - ・地域としてヤングケアラーと思われる事案を見つけたら、どこに行ったらいいのでしょうか？（奥議長）
 - ・区役所こども教育担当（子育て支援）をお願いします。（山村保健福祉課子育て支援担当課長代理）

（４）令和５年２月の区政会議全体会議におけるご意見への対応方針について

- ・豊中市や吹田市は、一人で大阪市の担当の４つから５つ分掛け持ちをしてい

る。大阪市の区役所は窓口がややこしくて仕方がないが、今回子育て支援と教育支援が一緒の担当になったのは、本当に良いことだと思います。（奥議長）

- ・地域住民が集まるきっかけをつくってくれるのは、やはり区役所だと思う。旗を振ってもらえたら、我々もそれに応えます。（奥議長）